

市民と行政のパートナーシップによる 安全なまちづくり

— 春日井市立白山小学校 —

学校・施設概要

所在地：愛知県春日井市味美白山町

創立：昭和43年

児童数：394名

学級数：12（平成14年5月現在）

地域・コミュニティの特性

- もとは農業集落だが、近年、戸建て住宅が建ち並び、新旧の住宅が混在している。
- 地区内に、国指定史跡「二子山古墳」を活かした歴史公園（「二子山公園」）が整備され、地域のシンボルとして親しまれている。
- 平成5年に市民や市、警察、消防、その他関係団体によって「春日井市安全なまちづくり協議会」が設立され、住民と行政の連携による安全なまちづくりが進められている。



女性フォーラムによる小学生の安全マップづくり

事例の特徴

- 市全体で安全なまちづくりに取り組んでいる。
- 学校と地域が協力し、子どもたちも参加しながら、安全・安心なまちづくりを進めている。

住民と行政の連携による 安全なまちづくりの推進

「春日井市安全なまちづくり協議会」の設立により、市民と行政のパートナーシップが施策的に確立された。地域の安全リーダーを養成する「春日井安全アカデミー」の開催や、市民ボランティア組織「春日井安全・安心まちづくり女性フォーラム（以下、女性フォーラム）」によるまちづくり活動等が展開されている。また、町内会の連合組織（白山校区コミュニティ推進会議）などとの連携により、総合的に安全・安心なまちづくりを推進している。



「春日井安全アカデミー」



子どもたちの制作した壁画が展示されている「地下道地域美術館」

子どもたちや住民の力を活かした 安全・安心づくり

女性フォーラムが中心となり、子どもたちから高齢者まで、様々な世代の視点を活かした「安全マップづくり」を行った。総合的な学習の時間を活用して地域の安全点検を行うなど、学校の学習活動と連動した取組を展開している。また、学校の「ふれあい授業」に地域の人材が「地域の先生」として関わることで、子どもと住民との顔見知りの関係がつけられ、安心感・連帯感を生んでいる。

地域に開かれた安全・安心な学校づくりの創意・工夫

起す

住民がまちづくりに様々な形で参加できるようにした

- 「春日井市安全なまちづくり協議会」を中心に、「春日井安全アカデミー」や「くらがり診断」「安全マップづくり」など、住民参加による様々な活動が展開され、安全に対する住民の意識を高めた。

安全なまちづくりに向けて互いに声をかけ合った

- 市民によって構成される女性フォーラムが、住民に参加を呼びかけて積極的に実践的な活動を行っている。住民主導のまちづくりの輪を広げ、住民が参加のしやすい環境をつくっている。

参加した一人一人が持っている力を発揮した

- 総合的な学習の時間を活用し、女性フォーラムのコーディネートにより、子どもから老人会や婦人会、町内会等の参加による「安全マップづくり」を行った。各世代の安全・安心に対する視点を踏まえた取組とした。
- 避難場所となっている史跡公園のシンボルである「ハニワ」を避難場所への誘導サインのデザインとして取り入れている。子どもたちや女性フォーラムが制作したハニワを活用することにより親しみやすくするとともに、住民の認知度を高めるようにしている。

広げる・つなげる

一人一人の力を育むことを通じて「協働」の力を高めた

- 安全に関する地域での取組を活かした授業を通して、子どもたちの意識を高め、地域の一員であることを自覚させている。地域の人と協力して安全を確保しようとする協働への意識を育んでいる。
- 「春日井安全アカデミー」では、市民一人一人の安全に対する意識を高め、安全なまちづくりのキーパーソンとなる人材を養成している。さらに、地域の防災・防犯の自主的な活動のキーパーソンとなる人材の養成にも取り組み、住民と行政が協働する力を育てている。

続ける

安全・安心のための工夫

- 「安全マップづくり」を通じて、子どもから高齢者までの安全に対する理解と意識を高めながら、地域の課題を共有した。
- 「春日井安全アカデミー」等によって、地域安全活動を質・量ともに向上させる取組を展開している。
- 通学路となっている地下道の安全を高めるために、女性フォーラムの提案を受け、学校や「白山校区コミュニティ推進会議」が清掃活動を行ったり、教職員や住民が、登下校時に立ち合ったりしている。
- 中学生が制作した壁画を展示し、「地下道地域美術館」とすることにより、地域住民の関心を集め、親しみやすい環境をつくっている。